

お知らせ

<同時資料提供先>



合同庁舎記者クラブ・鳥取県政記者会・島根県政記者会・岡山県政記者クラブ・広島県政記者クラブ・山口県政記者クラブ・山口県政記者会・山口県政滝町記者クラブ・中国地方建設記者クラブ

地方自治体が抱える施設管理の課題に対し、民間企業等が保有するシーズ技術を紹介し【傍聴参加者の募集】

～ インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」第14回ピッチイベントの開催 ～

インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」において、地方自治体等の施設管理者が抱える施設管理の課題（ニーズ）について、民間企業等が保有する技術やノウハウを持ち寄り、シーズ技術を広く共有し、技術の発掘と社会実装、連携の促進を図るピッチイベントを以下のとおり開催します。つきましては、傍聴参加者を募集します。

■開催日時・場所

令和7年10月3日（金）10:30～16:00

■開催場所

島根県芸術文化センター グラントワ 小ホール（島根県益田市有明町5番15号）

■開催内容、傍聴参加の申込要領

別添【傍聴参加者の募集】による

申込み期限：令和7年9月25日（木）

- 本ピッチイベントの開催案内、傍聴参加者の募集は、インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」のホームページにも掲載されています。傍聴参加申込書のオリジナルデータはこちらからダウンロードできます。 ホームページ URL：<https://www.cgr.mlit.go.jp/kikaku/im/index.html>
- 中国地方整備局は、産学官民の技術や知恵を総動員するプラットフォームとなるインフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」の取り組みを支援しています。
- 当日、取材を希望される場合は、開催日の前日までに、以下の問い合わせ先へ連絡願います。

問い合わせ先

【ピッチイベントの内容に関すること】

インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」企画委員会（事務局）

（復建調査設計株式会社 保全構造部内）TEL：050-9002-1744

天満 眞士（E-mail：jcim-chugoku@fukken.co.jp）

【インフラメンテナンス国民会議に関すること】

国土交通省中国地方整備局 企画部 TEL：082-221-9231（代表）

企画部 事業調整官 守山 和彦（内線3116）

広域計画課 課長補佐 岡田 直人（内線3212）

令和7年9月5日

インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」

第14回ピッチイベントの開催

【傍聴参加者の募集】

インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」では、地方自治体等の施設管理者が抱える施設管理の課題(ニーズ)について、民間企業等が保有する技術やノウハウを持ち寄り、シーズ技術を広く共有し、技術の発掘と社会実装、連携の促進を図る第14回ピッチイベントを下記のとおり開催いたします。

取り扱う施設管理者ニーズは別紙－1、シーズ提供者と技術の名称は別紙－2に示すとおりであり、傍聴参加者を募集します。

記

- 開催日時 : 令和7年10月3日(金) 10:30～16:00
- 開催場所 : 島根県芸術文化センター「グラントワ」小ホール (オンライン併用)
(島根県益田市有明町5-15)

お問い合わせ先

インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」 企画委員会
天満真士、松本豊久 (復建調査設計株式会社)
E-mail : jcim-chugoku@fukken.co.jp
TEL : 050-9002-1744

申 込 要 領

1. 申込み手続き

- 定 員 : 会場300名、オンライン80名(いずれも申込み先着順)
- 申込み方法 : 傍聴参加者申込書(別紙-3)を電子メールにて申込み先に送付
- 申 込 先 : インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」企画委員会
天満真士、松本豊久(復建調査設計株式会社)
メールアドレス: jcim-chugoku@fukken.co.jp

2. 申込み期限

令和7年9月25日(木)

第14回ピッチイベントの施設管理者ニーズ

テーマ No. 1 : 木橋の維持管理、補修に係わる技術

【理 由】

防腐剤等による措置を行っても木材の耐久性に限界があるため更新頻度が多くなる。

【条件等】

◇費用が安価な技術またはそれに変わる素材

テーマ No. 2 : 路肩、歩車道ブロック際の除草が短時間・安価で対応できる技術

【理 由】

地域対応による除草が困難な箇所が増えてきており省力化をしたい。

【条件等】

◇少人数、施工時間の短縮が図れるもの

テーマ No. 3 : 施設点検データベースの操作性向上

【理 由】

点検表、写真データなどをブラウザ上で確認できる仕様にする。タブレット端末などでの直接入力
が可能な仕様にする。

【条件等】

◇管理面での事務手続きの簡素化が図れるもの

テーマ No. 4 : 橋梁の効率的な点検技術

求める技術と理由	条件等
〔No.4-1〕 小規模橋梁の点検に対応できる新技術の導入 【理 由】 小規模な橋梁しかなく点検などに新技術を導入したとしてもコスト削減につながる実感がわからない。人材が不足していく情勢のなかで小規模橋梁にも対応可能な技術の開発などを望む。	◇小規模橋梁に対応可能なものであること ◇導入に際しコスト削減が図れるもの
〔No.4-2〕 点検車、高所作業車が必要な橋梁の点検技術 【理 由】 点検に手間がかかり高コストになる。	◇極力費用が安価な技術 ◇点検車、高所作業車に代わる技術(ドローン等)
〔No.4-3〕 職員でも容易に点検可能なシステム 【理 由】 技術の継承が困難で職員点検により判定のばらつきが出る。	◇極力費用が安価な技術 ◇車道上から点検できる技術(非破壊点検等) ◇桁下空間約0.5mで点検できる技術
〔No.4-4〕 小規模橋梁(5m程度)の効率的な点検 【理 由】 小規模橋梁が2,000橋近くあり点検にかなりの時間と労力、費用を要している。	◇職員でも対応可能であること ◇点検時間が短縮されること ◇点検～診断までAIなどを使用することで効率的になること ◇安価であること ◇国の新様式及び県の新様式に対応していること
〔No.4-5〕 ドローンを活用した新技術(益田市) 【理 由】 既存の市保有のドローンを用いてさらに効率的な直営点検を図りたい。	◇既存の保有ドローンを活用できること ◇極力費用が安価な技術

テーマ No. 4 : 橋梁の効率的な点検技術

求める技術と理由	条件等
[No.4-6] 小規模橋梁の効率的な点検 【理 由】 iPad等のLiDAR機能を用いてさらに効率的な直営点検を図りたい。	◇橋梁点検現場における手作業での損傷範囲計測記入やデジカメ撮影の労力を軽減できる技術 ◇点検調書の作成の効率化やミスの防止が図れること
[No.4-7] 写真撮影による劣化診断 【理 由】 橋長の短い橋(5m以下)については直営点検を行っているが、現地調査から調書作成まで負担が大きいため業務の効率化を図りたい。	◇極力費用が安価な技術 ◇写真より劣化状況を判断し調書に反映させる技術
[No.4-8] 写真撮影による劣化診断 【理 由】 直営点検を行った際の点検作業の効率化を図りたい。	◇写真により劣化判定できる技術
[No.4-9] 点検における新技術の活用 【理 由】 点検における新技術では、例えばドローンの活用や画像診断があげられるが、実際のところ打音診断やはつりなどが必要なことがあり、画像診断ではかえって二度手間になるなどコスト減にならない。しかも、確度も高くない。	◇従来法よりもコスト低減可能でありかつ確度が高い新技術

テーマ No. 5 : 暗渠管内部の損傷状況を遠望から確認、点検する技術

【理 由】

老朽化で陥没した暗渠管内について危険なため管内部に人が入ることができない。

【条件等】

◇遠望から管路内を安全に確認、点検できる技術

◇極力費用が安価な技術

テーマごとのシーズ提供者と技術の名称

テーマNo.	ニーズ	シーズ提供者	技術の名称
No. 1	木橋の維持管理、補修に係わる技術	鳥城エンジニアリング株式会社	N100木材保護工法
No. 2	路肩、歩車道ブロック際の除草が短時間・安価で対応できる技術	株式会社白崎コーポレーション	NEOシーリング
No. 3	施設点検データベースの操作性向上	京セラみらいエンビジョン株式会社	SmartBee
No. 4	橋梁の効率的な点検技術	キャノン株式会社 株式会社東設土木コンサルタント	橋梁等のコンクリート構造物のひび割れ検知(画像点検AI)・判定支援技術の簡易的な導入方法
		首都高技術株式会社	全方位カメラを用いた点検支援技術
		株式会社コクリエ	小規模橋梁の点検ガイドライン「基本定期点検」
		株式会社ズームスケープ	動画像変位計測システムZoom300
		京セラみらいエンビジョン株式会社	SmartBee
		西日本旅客鉄道株式会社 株式会社レールテック	多種多様の「新技術」を活用した効率的な橋梁点検のご提案
		西日本高速道路エンジニアリング四国株式会社	橋梁などのコンクリート変状を遠望非接触にて赤外線法により検出する技術JシステムEvolution
		株式会社DTSインサイト	サイトダイバー
		日本ミクニヤ株式会社	LiDAR機能を用いた点検効率化に向けたサポートデスクサービス
No. 5	暗渠管内部の損傷状況を遠望から確認、点検する技術	キャノン株式会社 株式会社東設土木コンサルタント	橋梁等のコンクリート構造物のひび割れ検知(画像点検AI)・判定支援技術の簡易的な導入方法

インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」

第14回ピッチイベント

傍聴参加者申込書

令和 7 年 9 月 日

参 加 形 式	会場 ・ WEB		
フリガナ			
企 業 ・ 団 体 名 称			
フリガナ			
参 加 者			
フリガナ		フリガナ	
所 属		役 職	
フリガナ	〒		
所 在 地			
連 絡 先 メールアドレス			
電 話 番 号			

注意事項

1. 申込みの際の電子メールの件名は、「ピッチイベント傍聴参加者申込み」としてください。
2. 参加形式は、会場またはWEBを指定してください。
3. ご記載いただいた個人情報は、ご本人の同意なく当ピッチイベント以外で利用することはありません。